学校教育目標　生き生きと学び　力いっぱい活動し　だれとでも仲良く

学校だより　５月号

市田っ子

令和２年４月２４日発行
熊谷市立市田小学校

花と笑顔とあいさつ「ありがとう」いっぱいの学校

市田小ＨＰ　http://www.ichida.ed.jp/

「ありがとう」いっぱいの学校に

校長　板倉　伸夫

保護者、地域の皆様におかれましては、日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染防止のご対応、家庭学習プリントの引き取り等、ご協力ありがとうございます。

まず報告ですが、４月８日（水）新型コロナウイルス拡散防止の対策を施し、始業式と入学式を行いました（右ページ写真をご覧ください）。改めまして児童の皆さん、保護者の皆様、進級・入学おめでとうございます。

子供たちに初めて会う日で緊張しましたが、登校してくる様子や、大きい声で「おはようございます」と挨拶する皆さんから、元気と安心をいただきました。

始業式では、今年度の市田小学校のオールスタッフをはじめとし、新担任の先生方の紹介と、今年度、挨拶を頑張って欲しいこと、特に市田小学校を「ありがとう」でいっぱいの学校にしたいことをお願いしました。

午後は、新入生も保護者の皆様も教職員もマスクをしての入学式となりました。担任の川田真央先生が呼名すると「はい」と一人一人がしっかり返事ができ、学校生活の期待を抱かせる入学式となりました。また、保護者の皆様には、「熊谷の子どもたちはこれができます！『４つの実践』と『３減運動』」の中でも、「朝ごはん」をしっかり食べて登校することをお願いさせていただきました。

４月２４日現在、朝ごはんを食べ元気に登校し、大きな声の挨拶を聞くことができませんが、学校が再開したら、花と笑顔とあいさつ「ありがとう」いっぱいの市田小学校を１５５名の子供たちと全教職員、ご家庭や地域の皆様方と一緒につくっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

生活目標について

5月生活目標

学習の決まりを守ろう。

「なぜ　ルール（きまり）があるのだろう」

令和　２　年度も子供たちが快適に学校生活を送るため、様々なルール（きまり）を確認しながら、みんな元気に過ごしていきたいと考えています。

社会には様々なルールがあります。学校にも、「廊下の歩き方」、「職員室の入り方」、「市田小よいこの生活」等のルールがあります。ルールは守らなくてはいけないものです。しかし、大切なのは、守らなければいけないから守るのではなくて、守ることでみんなの生活が安全に、また豊かになるということを共通理解することです。

このことを念頭に置き、自ら行動できる「市田っ子」になって欲しいと思います。

○きまりは、みんなを守るためにあります。

○きまりは、学校生活を楽しく安全にするためにあります。

最初は窮屈なところもあると思いますが、ルールを守って生活することの大切さを伝え、実践できるように支援していきます。

学校生活レポート

令和２年度　市田小学校入学式

市田小マスコット
いちぼん

４月８日（月）入学式を行いました。２７名の1年生が市田小学校の仲間となりました。担任の先生から名前を呼ばれると、しっかりと返事ができる姿は、大変立派でした。小学校の6年間で多くのことを学び、吸収し、心身ともに大きく成長して欲しいと思います。

始業式

始業式は、校庭で行いました。子供たちは、新しい先生と出会い、新しい教室で、新しい生活をスタートさせました。

担任との出会い

ひまわり・ひばり学級

２年生

３年生

４年生

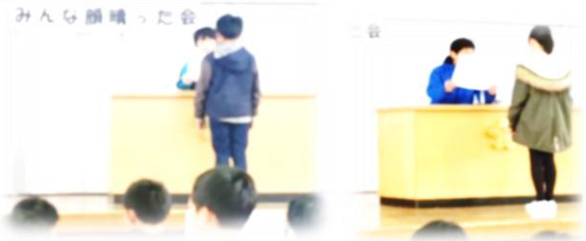
５年生

６年生

各クラスの担任は黒板にメッセージを書いて子供たちを迎えました。心のこもったメッセージを読んだ子供たちはきっと「これから始まる1年間」への期待でワクワクしたはずです。

新型コロナウィルス感染拡大防止対策で、子供たちは友達に会うこともできず、自分のやりたいこともできず、苦しいと感じているかもしれません。ただ、今、日本だけではなく、世界中の人が同じように苦しんでいます。子供たちの健康を一番に考え、全員で乗り切っていけるよう私たち教職員も支援をしてまいりたいと思います。

オリジナル卒業式



友達のために作った「卒業証書」を渡し合いました。

６年間の感謝の気持ちを伝えました。

上の写真は、3月に卒業していった子供たちです。突然の臨時休校で、「6年生を送る会」も「卒業式」も計画通りにはできなかった、現大里中の1年生です。この子たちは、厳しい状況、条件の中「今の自分たちにできること」を考え、実践しました。それが、「オリジナル卒業式」です。手作りの卒業証書、宣言、ありがとうメッセージ等々限られた時間の中で、自分たちだけの会を創り上げました。苦しい時こそ、知恵が生まれます！逆境を力にする素晴らしいパワーを感じました。